

「新ホール整備候補地調査」の結果について

1 新ホール施設規模・機能の概要

(1) 調査モデルプラン

構造：地上4階＋地下1階、鉄骨鉄筋コンクリート造

延床面積：約11,400㎡（現計画：16,223㎡）

配置：エントランスは駅側、舞台・搬入はあわぎんホール側

構成：大ホール（客席3層 固定席1,504席＋仮設席・立見席）、
舞台、楽屋、リハーサル室、スタジオ・活動室 等

舞台：照明バトン、音響反射板、迫り・オーケストラピット等の舞台機構、
袖舞台、奈落等の機能は、現計画の基準を維持

騒音振動：適切な防音・防振対策により、音響環境を確保可能

(2) その他

カフェ飲食：公演に影響されやすいホール内ではなく、

パークPFIを活用し、藍場浜公園東エリアでの民間運営を検討

地下駐車場：直下の藍場町第1地下駐車場は解体が必要

2 コスト・スケジュール

(1) 概算工事費

本体工事費：約142億円

※令和6年4月時点の単価を基に、構造・設備・外構工事等の積み上げにより算出

関連工事費：約12億円（藍場町第1地下駐車場 設備移設・解体等）

(2) スケジュール

設計期間：約1年6ヶ月

施工期間：約2年10ヶ月

※設計期間及び施工期間は、今後の整備手法や選定事業者により変動

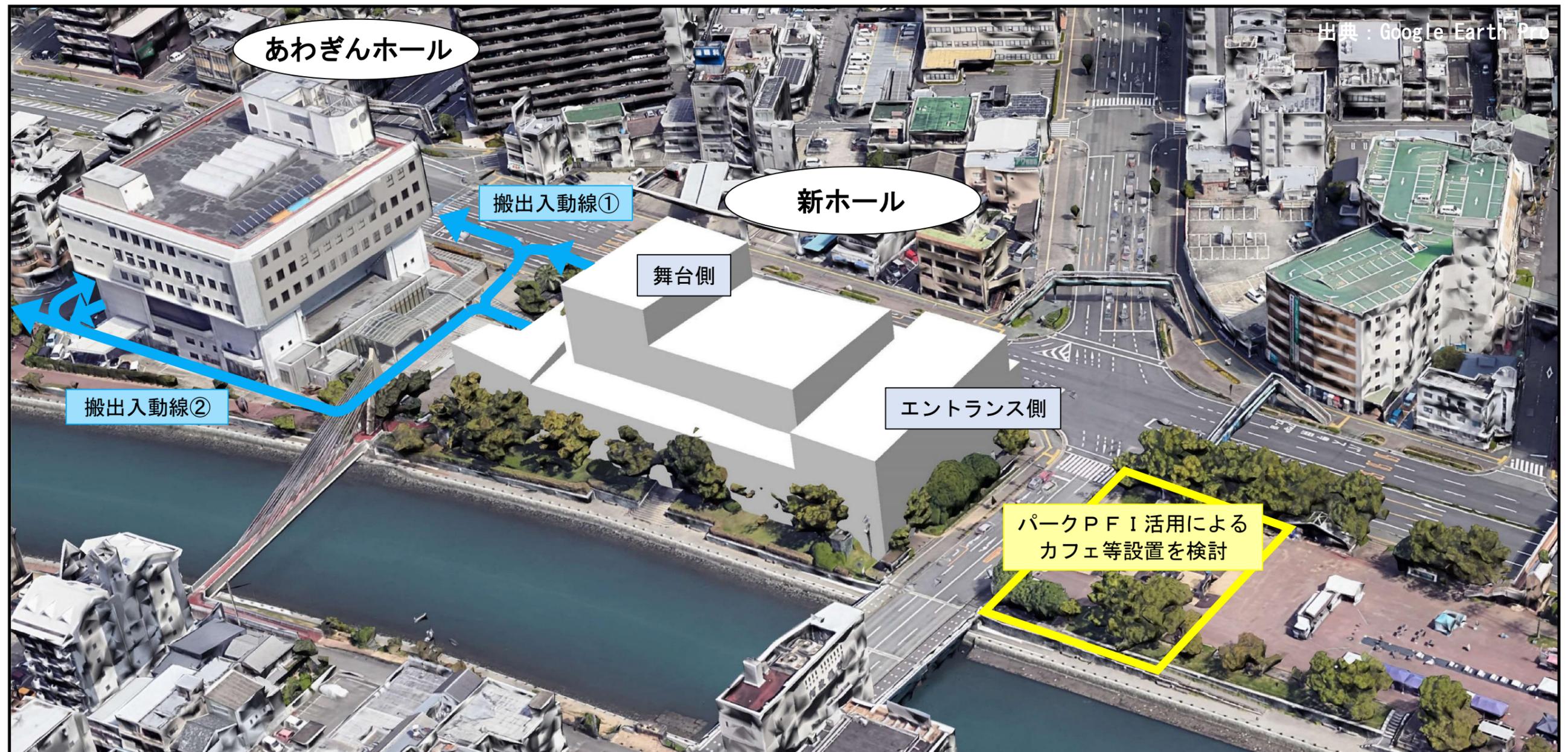
その他期間：計画改定、合意形成、事業者選定などに数ヶ月間必要

整備手法をPFIとした場合、導入可能性調査に約1年必要

3 その他

調査結果の詳細については、別紙概要版のとおり

藍場浜公園西エリア 新ホール配置イメージ図



- 徳島駅側にエントランス、あわぎんホール側に舞台・搬入を配置することで、敷地の形状に合わせた効率的な諸室配置が可能
- 大ホールは1,500席以上とし、クラシック音楽・オペラ・ダンス・演劇など様々な演目に対応した舞台機能を確保
- 適切な防音・防振対策により、周辺環境の影響を受けない音響環境を確保
- 11トトラック2台分を確保できる搬入ヤードに加え、2パターンの搬出入経路により、スムーズな運営が可能
- あわぎんホールとの一体活用時は、搬出入経路上に大型車両の複数台待機が可能
- カフェ等は、公演に影響されやすいホール内ではなく、隣接する藍場浜公園東エリアにパークPFI活用による設置を検討し、徳島駅側からの人の流れや日常的なにぎわい創出が可能